

# 2023年3月期 第3四半期 決算説明資料

ジオマテック株式会社  
create coating solutions

2023年 2月8日

# 第3四半期 業績

当社は、2022年8月8日付で連結子会社であった吉奥馬科技（無錫）有限公司の全出資持分を譲渡したことに伴い、第1四半期累計期間までは連結決算でありましたが、第2四半期累計期間より非連結決算へ移行いたしました。  
 本資料はすべて単体の数値（参考情報含む）で作成しております。

(参考)

単位：百万円

	2022.12	2021.12	前年同期比	
	(3Q-FY23)	(3Q-FY22)	増減	増減率
売上高	4,606	4,275	331	7.7%
営業利益	317	182	135	74.2%
(営業利益率)	6.9%	4.3%	-	-
経常利益	387	222	165	74.3%
四半期純利益	△ 115	216	△ 331	-
1株あたり 四半期純利益(円)	△ 14.63	27.39	△ 42.02	-
加工高	3,987	3,654	333	9.1%

※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上（付加価値収入）のことです。  
 尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

# 財務概要

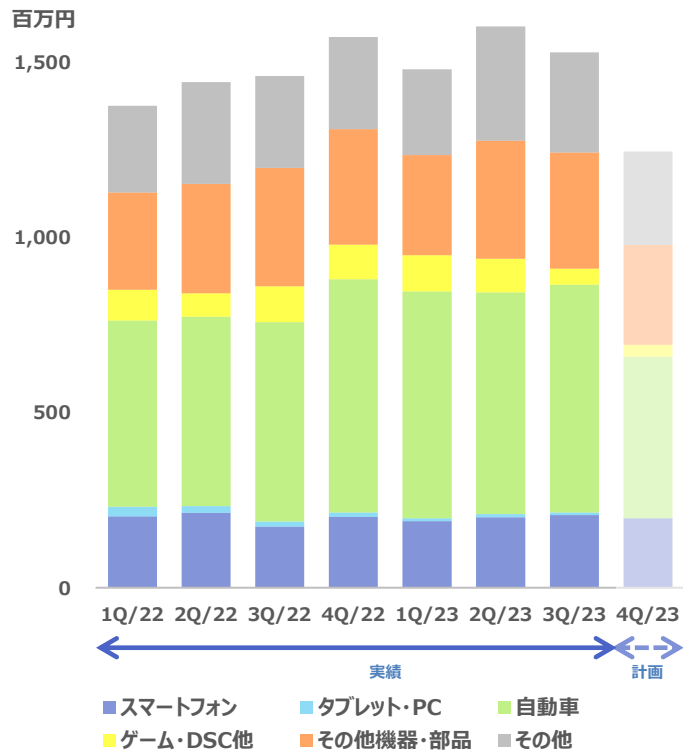
単位：百万円	2022.12	2022.3	増減
<b>流動資産</b>	<b>12,408</b>	<b>13,259</b>	<b>△ 851</b>
現金・預金	4,975	5,584	△ 609
受取手形及び売掛金	4,173	4,984	△ 811
電子記録債権	667	530	137
棚卸資産	1,970	1,598	372
その他	620	560	60
<b>固定資産</b>	<b>4,689</b>	<b>5,508</b>	<b>△ 819</b>
有形固定資産	2,609	2,646	△ 37
無形固定資産	79	69	10
投資その他	2,000	2,792	△ 792
<b>合計</b>	<b>17,097</b>	<b>18,768</b>	<b>△ 1,671</b>

単位：百万円	2022.12	2022.3	増減
<b>負債</b>	<b>6,739</b>	<b>8,355</b>	<b>△ 1,616</b>
支払手形及び買掛金	3,937	4,815	△ 878
借入金等	1,970	2,154	△ 184
その他	830	1,385	△ 555
<b>純資産</b>	<b>10,358</b>	<b>10,412</b>	<b>△ 54</b>
株主資本	10,216	10,332	△ 116
評価・換算差額等	142	80	62
<b>合計</b>	<b>17,097</b>	<b>18,768</b>	<b>△ 1,671</b>

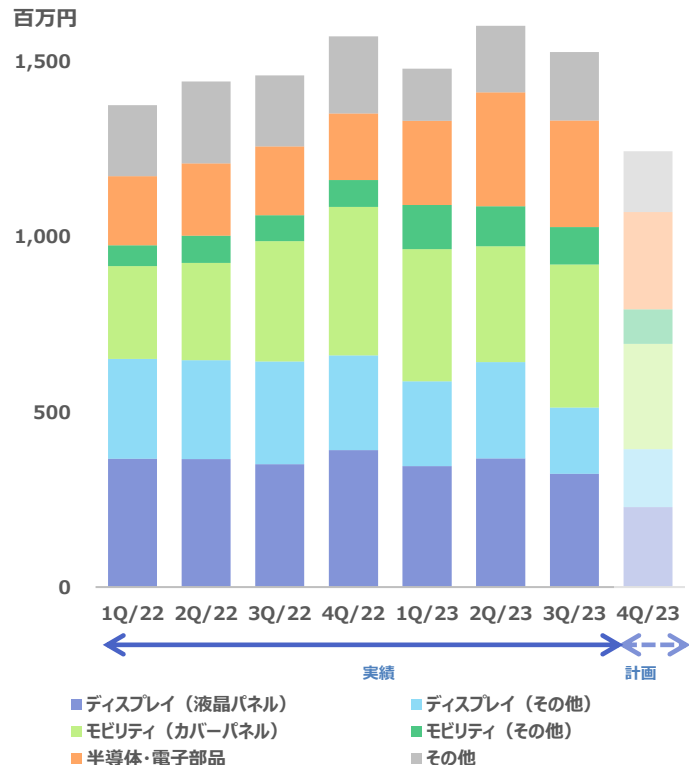
<b>自己資本比率</b>	<b>60.6%</b>	<b>55.5%</b>	<b>5.1pt</b>
<b>1株あたり純資産(円)</b>	<b>1,309.54</b>	<b>1,316.34</b>	<b>△ 6.80</b>

# 四半期売上実績

## 最終製品別売上高推移



## 品目別売上高推移



# 2023年3月期 業績見通し

単位：百万円	2023/3					2022/3
	通期計画	1 H実績	2 H計画	前期比		実績 (参考)
				金額	増減率	
売上高	5,850	3,079	2,771	4	0.1%	5,846
営業利益	50	228	▲ 178	▲ 169	-	219
営業利益率	0.9%	7.4%	▲6.4%	-	-	3.7%
経常利益	135	296	▲ 161	▲ 193	-	328
当期純利益	▲ 370	▲ 203	▲ 167	158	-	▲ 528

加工高	5,120	2,669	2,451	118	2.4%	5,002
研究開発費	300	144	156	6	2.0%	294
設備投資額	600	169	431	▲ 588	▲49.5%	1,188
減価償却費	390	173	217	173	79.7%	217

## ① 成膜加工QCDT（quality, cost, delivery, technology）の更なる強化

当社の基幹事業における有望市場の変遷やサプライチェーンの統合・再編による競合環境に加え、昨今のパンデミック・地政学的影響による環境変化にも対応すべく、成膜専門メーカーとしてのQCDT強化を図ってまいります。

- ・ モノづくり戦略見直しの一環として、各製造拠点での製造品目特性に則した品質ロスコストの低減と歩留り改善、自動化及びIT化による工程作業効率や装置設備の使用効率改善によって、品質と生産性の更なる向上を継続して進めております。
- ・ 急激な市況変化やサプライチェーンの混乱による需給変動にも柔軟に対応すべく、顧客との先行情報共有や自社内プロセスの短縮に加えて、調達や加工工程の複線化にも取り組んでおります。
- ・ 商材カテゴリー毎に細分化した職能横断的なタスクフォースを展開し、個々の商材ニーズの発掘や創出と、ニーズに則した競争力の向上に取り組んでおります。

## ② 特定市場への過度な依存からの脱皮

従来の当社主要市場であるスマートフォン用中小型FPD市場では、液晶パネル関連需要の減速と有機ELパネルへの移行が加速しているため、特定市場への過度な依存から脱皮し、成長分野へと事業領域拡張を進めております。

- ・ 成長性を見込む対象市場を、ディスプレイ・モビリティ・半導体及び電子部品関連の3分野に設定して分野別対応策や体制再編を段階的に実行することにより、事業及び商材ポートフォリオの転換に取り組んでおります。
- ・ 研究開発部門では先行技術の開発に、製造技術部門では既存技術の応用や製法の多角化に各々注力すると同時に、相互連携を強化して成長を支えるコア技術の創出に取り組んでおります。
- ・ これまでの部分工程受託で培った、技術や製造ノウハウ・装置調整や工程及び設備設計といった「匠」のコンサルティングも事業商材と位置付け、協業も積極的に活用することで新たなビジネスモデルの拡張に取り組んでおります。

## ③ 経営体質の更なる強化

上述のような、既存分野と新規分野における事業成長の直接的な取り組みと同時に、経営体質の強化も進めております。働き方の見直しによる管理間接費のムダ取りと回収進捗の可視化による投資効果の見極めにより、経営効果に直結する支出管理の徹底に取り組んでおります。

- ・ 「2025年の崖」リスクの回避に向け、基幹ITシステムの置換と併せ各種データのデジタル化及び共有活用とBI化といったDXを進めると同時に、関連業務自体の見直しで経営の効率化に取り組んでおります。
- ・ また、前述の全ての対策効果を最大化するために、現場での意識改革を主眼とする
- ・ 全従業員参加型の企業風土改革プロジェクトを並行して推進しております。